

2025年12月12日

全国フェミニスト議員連盟 御中

草津町議会 議長 宮崎謹一

貴連盟ホームページ掲載・2025年11月30日付

『元草津町議会議員 新井祥子さんの裁判判決を受けて』に対する当町議会の見解

前略

2025年9月29日に前橋地方裁判所にて、新井祥子・元草津町議会議員による虚偽告訴・名誉毀損事件について、「懲役2年 執行猶予5年」の有罪判決が下され、同氏による“性被害”なるものの告白が完全に虚偽であったことが確定しました。判決文内では新井氏について「被告人が解職されたりバッシングを受けたりした原因は、町議会議員であった被告人が、町長の名誉を毀損する嘘をついたことにあるから、自業自得と言わざるを得ず、捜査機関に対して嘘の話を真実であるかのように装う理由にはならない」と断じています。

この判決を受けて貴連盟は11月30日の公表文で「当連盟のこれまでの対応が、結果として草津町長をはじめ関係者の皆様にご負担をおかけしたことを、心よりお詫び申し上げます。」と述べられる一方で、その対応の核心であった2020年12月15日付の当町議会への抗議文について、リンクを再掲載された上で「議会の非民主的な運営等に対するものです。」と記述しておられます。

当時お寄せ頂いた抗議文に対し私ども草津町議会は、事務局としてご住所・お名前が掲載されていた川越市議会の伊藤正子議員に回答書をお送りし、また当議会ホームページにて抗議文と回答書を併せて公開しました。その後貴連盟から当議会へは何らご返答を頂けないうちに現在に至っておりますが、今回改めて、回答書内で当議会が提示した問題点を無視された状態で当町議会を“非民主的”と断じられたことに、驚きと当惑を禁じ得ずにあります。

回答書内で提示した、当時の議会で明らかになっていた新井氏の議会発言の矛盾点ですが、その後の裁判においては、次の事実が判明しました。

① 町長室の家具の配置

新井氏が議場において「私に説明責任があるので裁判所で明らかにします」と明言していた“証拠隠滅のための模様替え”について、各訴訟における書面では一切触れられず、また刑事裁判における本人尋問でも「覚えていない」と発言しました。

② 2020年10月5日に新井氏がfacebookで公開した『秘密録音』

新井氏が黒岩町長を刑事告訴した際に群馬県庁で行った記者会見では、記者の質問に「町長が近づいてきたときに録音機を持っているのがばれたかと思い、そこでスイッチを切った」などと発言していました。しかし実際には、新井氏は当日、町長室への入室前から退室後の車中まで、当該録音を含む全ての会話を録音・保持しており、町長による“わいせつ行為”やそれに至る発言等は新井氏による完全な創作であったことが、検察による証拠提示（法廷における録音の全部再生）によって明らかになりました。

草津町議会でリコール成立前に行われたこれらの検証は、当時の時点で顕在化していた客観的な矛盾点を新井氏に問うたものであり、新井氏、そして矛盾を問うた他の議員の性別に関係なく行われるべき内容でした。新井氏を厳しく断罪した判決の内容、そして黒岩町長への人権蹂躪において貴連盟ならびにその先導を務める方々が果たされた役割をどの程度受け止めておられるのか、今回の声明から掴み取ることはできませんが、“結果として”、“ご負担”などの言葉で責任の濃度を薄めながら「心よりお詫び」を述べつつ、一方で当町議会に対しては従来主張を繰り返され、「非民主的」というレッテルを貼り続けたまま活動の継続を宣言される貴連盟の姿勢には、大いに疑問を感じざるを得ません。

なおリコール成立後、新井氏はその無効を求める訴訟を群馬県選挙管理委員会を相手に提起しましたが、「リコールは有効」との判決が最高裁判所により下されています。

結びに、今回の判決後に黒岩町長の元に直接謝罪に来訪された一般社団法人『Spring』の代表理事さまより頂いたお詫びの文面に記された一節を引用いたします。

「虚偽の罪をなすりつけられた個人を批判することは、その人がその人自身であることを否定する行為です。被害を周囲に受け止めてもらえないことや、苦痛を表明する声を疑われるということが、人の尊厳を奥深く傷つけ、生きる力も透明にしてしまうということを、私たちは理解していたつもりでした。

しかしながら当団体が示してきた元町議への連帯は、草津町長に対する人権侵害への連帯であったといえます。性的な噂を流すことや、虚偽の性加害を吹聴することは、性暴力の類型のひとつです。害を被る主体は、その性別や、個人であるか集団であるかを問いません。元町議による虚偽の訴えに端を発した一連の出来事において、草津町長への批判は膨れ上がり、これにより町長のみならず、草津町の印象や尊厳までも傷つけることとなりました。町長のご指摘されるように、このようなことが生じれば、現に存在する性暴力被害当事者が、社会に向けてより声を上げにくくなるという深刻な負の影響をもたらす結果にもつながります。」

草々